

# 敗戦を背負った元軍人たちが

むろだて  
室館

いさお  
勲

## ビジネスに懸けた想い

(株式会社 潮流社  
代表取締役社長)

日本のビール市場に衝撃を与えた生ビール『アサヒスーパードライ』の生みの親である、元アサヒビール株式会社名誉顧問の中條高德先生が旅立たれてから、今年の12月24日で9年が経ちます。1927年生まれの中條先生は戦時中、陸軍士官学校に入校して帝国陸軍兵長として敗戦を迎えました。

私はこれまで、当時帝国陸海軍に所属していた、多くの元軍人の方々のお話を聞かせていただく機会に恵まれました。昭和20年8月15日の玉音放送をどのような想いで聞いていたのか。敗戦を受け入れる葛藤や悔しさ、やるせなさを幾度も聞かせていただきました。

戦時中は日本のために戦い、英雄のように扱われていた軍人ですが、敗戦後は手のひらを返され、国民から耳を塞ぎたくなるような罵詈雑言を浴びせられ、影を潜

めて、歯を食いしばって生き抜いた方が多かったです。日本を護りきれなかった情けなさを抱えながらも、下を向いてばかりではいられないと自らを奮い立たせ、数多くの元軍人たちが民間企業に勤めることになりました。腹の底には「戦争では負けてしまったが、経済では絶対に負けない」という強い気持ちを抱き、朝から晩まで仕事に没頭されました。

中條先生もそんな気持ちを抱えた元軍人の一人でした。「商戦」という言葉もありますが、戦争で勝つために訓練され、実際に前線で命をかけて戦った経験を持つ元軍人にとって、命を取られる心配がない仕事をどれだけやっても、戦場の悲惨さやプレッシャー、敵を倒さなければいけない葛藤に比べれば、幾分気持ちが楽だったのではないかと容易に想像ができます。その勢いを持って、働き盛りの20代、30代、40代を駆け抜けた元軍人たちが、各方面で汗水を流して働き、リーダーシップを発揮したことで、戦後の日本の高度経済成長が実現したのだと思います。本当に感謝しかありません。

『ジャパン・アズ・ナンバーワン (エズラ・ヴォーゲル著)』という書籍も出版されたように、1980年代の日本は明らかに世界の中心で経済を牽引していました。その後、バブルの崩壊もありましたが、それでもなんとか持ちこたえて戦ってきたのが1990年代の経済界のリーダーたちでした。

何か日本の雲行きが怪しいと、私を感じるようになったのは2005年頃だったと思います。1945年の敗戦を二十歳で迎えた元軍人たちは80歳となり、ビジネスの世界から次々に引退をしていかれました。私も経営者になっていたからでしょうか、以前よりも「労働基準法」「ブラック企業」「ハラスメント」という言葉を聞く機会が非常に増えたような気がしていました。

それらの言葉が悪いと言うつもりはまったくありません。働き方改革で救われた人も数多くいらっしゃると思います。社員を道具のように扱うブラック企業は絶対に認めてはいけません。また、経営者としてパワハラやセクハラに代表されるハラスメントは絶対に阻止しないといけないと強く思います。しかし、何事もやりすぎは良くないと思います。

江戸時代は毎月1日と15日だけが休みだったという話を聞いたことがあります。私の実家は農家でしたが、両親が休んでいる姿をほとんど見たことがありません。幼少期からそんな両親の背中を見てきたので「大人は働くもの」という認識でした。実際に戦後の日本人は、世界で一番働いていると言っても過言ではないくらい、熱心に仕事をしていたようです。しかし、OECDの調査による、2021年の国別の総労働時間ランキングを見ると、日本は1607時間で44カ国の平均1716時間を下回っています。各国の産業の違いはありますが、アメリカよりも労働時間は

短くなっています。

「ワンフォアオール・オールフォアワン」という言葉もありますが、それぞれが必死に働き、力を合わせていかなければピンチを乗り越えることはできないと思います。何の成果もあげていないのにも関わらず「定時になったから帰ります」という人ばかりの組織に未来はあるのでしょうか。

現代の日本は経済が低迷し、デフレからの脱却が大きな課題となっています。景気対策の政策も問題ですが、そもそも、年間の約3分の1にあたる120日も休んで経済を良くしようというのは、あまりにも虫が良すぎるのではないかと思ってしまう。

日本の経済復興に貢献した元軍人たちは、戦争を戦うように、死に物狂いでビジネスの世界で戦い、今の日本の基盤を作ってくれました。肉体的にも頭腦的にも必死に働いてきてくださった方々が引退すると同時に、それまでの働き方の価値観を否定されるようになりました。労働者を守ることは大切ですが、体力的にも精神的にももっと働きたいと思っている人まで働けなくなったことが、日本経済の低迷の最大の原因のような気がしてしまふのは私だけでしょうか。本当に経済を復興して、日本を豊かにしたいのであれば、やるべきことはシンプルに「必死に働く」ことだと思います。

